

『潜入』 女子大生逆レイプサークル

潜入捜査員：平平平平

目 次

P 1 : 表紙

P 2 : 目次

P 3 : 人物紹介

P 4～P 5 : 接触

P 6～P 10 : 開始

P 11～P 22 : そして蹂躪

P 23 : 巻末

※無料サンプルにつきP5まで

人物紹介

平平平平（ひらたいらへいべい）

今回の案件の潜入調査員。ごっつい肩書だがただ見た事をメモって Daishirou に、伝えるだけの人。どんな人物かは巻末参照

華恋（かれん）

仮名。逆レイプサークルの代表者で都内にある偏差値が高い某国立大学の4回生。ロリというほどでは無いが実年齢より少し若く見られる顔立ちをしている。背はどちらかといえば低い。反面脱いたら素晴らしい美巨乳と縊れを持つモデル体系。内定は貰っているが将来について色々悩んでいるらしい。今回の事で潜入捜査員とある程度仲良くなった様で番号とアドレス、LINEを交換した。

蘭

仮名。某体育大学の柔道部のキャプテン。3回生。高校の頃は県大会などで結構な成績をおさめたらしい。背は高い。筋肉質である意味むっちり系だが柔らかくて美味しそうな爆乳と爆尻も一緒に持ち合わせている。

みな

仮名。某Fラン大学の3回生。ド派手な金髪ヤリマン黒ギャル。腰がキレイに縊れたスレンダーな体系をしている。とにかくノリが軽い。

被害者A

ジャニ系のソフトマッチョ。カッコいい事が災いとなった被害者さん。

接 触

ヤリサー…性行為を目的とするイベントサークルのこと。
大学サークルの性的不祥事がニュースになってからは、
こちらを指してヤリサーと呼ぶことも多い。
日本語俗語辞典参照。

その内訳もテニスサークルに偽装したコンパサークルから、
酒に酔わせて強引に持つて行くヤバいサークルまで様々だ。
そのヤリサーに関連する事で凄い情報を入手した。

何と女子大生のみが所属する逆レイプ専門のヤリサーがある。
しかも規模はかなり巨大だそう。

本当なのかと疑念を抱きながらサークルの代表者と、
東京 23 区内の某駅近くにある喫茶店で接触した。

やって来たのは大学生より少しだけ若く見えるロングヘアーの、
超がつくほど可愛い女の子。服装はリクルートスーツだ。
少し背伸びをして大人の知的な落ち着いた女性になろうとしている雰囲気
が勃起をそそる。華恋「初めまして。華恋（仮名）と申します」
挨拶も早々にサークルの内情や華恋ちゃん個人についてのインタビューを
開始した。

「普段は何をされているんですか？」

華恋「都内にある〇〇大学の経営学部
に在籍する大学生です」

事前に聞いていた大学名と学部を確認し改めて驚いた。
個人情報流出し、人物が特定されてしまうので詳しい事は書けないが
誰もが知っている関東にある有名国立大学だ。学生証も確認させてくれたので嘘
では無さそう。

「具体的にどんな活動をされているんですか？」

華恋「年に二回サークル全体で行う大掛かりなイベントがありますが、
それ以外は各クラブがそれぞれ自主的に独自の活動をしています」

「クラブとは？」

華恋「サークルメンバーが 3 人以上所属する団体の事です。
大学単位でクラブを作っている事が大半ですが、
サークルメンバーが少ない地域では大学にまたがって構成されている場合も
有りますし、専門学校や短大でもクラブは存在します。
フリーターの方でも友達の紹介でクラブに入ってる場合も有りますし、
OGが集まって作っているものも有ります」

「つまりケースバイケースで色々あるという事ですね？」

華恋「はい」

「サークルはクラブの集合体だという考えで差し支えないでしょうか？」

華恋「はい。クラブはそれぞれ個性的で独自の活動をしています。

正直なところ幽霊クラブみたいなものも多いですし。

私の役目はそれぞれのクラブの連絡係くらいに考えてくれて大丈夫です」

「分かりました。ではクラブはいくつくらいどんな所にあるのかと、

サークルの具体的な人数をお伺い出来ますか？」

華恋「うーんクラブはいくつ位かな？」

名簿上は 150 くらいある事になってますけど実際活動しているのはその半分くらいです。

人数も 600 人くらいになってますけど実働は 400 人行くか行かないかですね。

クラブは実働しているだけで言うと 4 割強が関東。2 割が関西、1 割が名古屋、残りが地方にある感じです。」

「凄い規模だな。スーパーフリー（※注 1）も真っ青だわ」

華恋「あんな卑劣な集団と一緒にしないでください！

私たちは男性たちに自分の想いを伝える事が怖くて出来ない、

シャイで純情な女の子達の集まりです！」

「ごめん。でも規模はもう完全に赤軍派のセクトかと（※注 2）」

華恋「アハハハ。ヤダなあ。私たちはそんな反社会的な恐ろしい集団じゃないですよ」

「…分かりました。じゃあ華恋ちゃんの活動を見せて貰いたいんだけど大丈夫？」

華恋「うーん。実は私、今、4 回生で内定は貰ってるんですけど、

色々と進路に悩んでるんですよ。だから今は活動にはそんなに参加してないんですよ」

「そうなんだ」

華恋「でも、今日はせっかく活動を知りたいって事なんでちょっとだけやっちゃいます！」

「結構気合入っているね」

華恋「バレちゃいました？実はちょっと緊張してまして。今までこんな事無かったですし…

会うのもスーツじゃなきゃ失礼かなって思っちゃって。

あとクラブでも個人でも逆レイプのやり方って変わってくるんで、

これからやるのは私のやり方です」

「一人でやるの？」

華恋「私は一人でも結構しますね。

でも、今日は後輩の娘も後から呼んで色々手伝って貰おうと思っています。」

話せば話すほど歳相応の娘だという事がよく分かった。

いや普通の娘よりも明るくて良い子だ。こんな娘が逆レイプをする…。

俺はとても興味を駆られた。